
joker

ary

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

joker

【Nコード】

N69610

【作者名】

ary

【あらすじ】

夢を見た。

しわくちやになったシーツを掴んで思う。こんな風だった。こんな風に俺は夢の中で掌を火傷した。この滑らかなシーツの感触と同じくらい、リアルで生々しい夢だった。

……そうして顔を上げた先にいたのは、部屋にいるはずのない異物。彼は言った。仰々しく、実に楽しそうに。

「君は命を狙われた可哀想な王様だ」

……俺はこいつに言いたい。18世紀に帰ってしまえと。

夢

間延びした空間だった。怠惰で、それでいて綺麗な、童話のような部屋の中に俺はいた。手元を照らすオレンジ色の照明の明かりは、この小さな部屋の半ばまで緩やかに伸びていた。途中で飽きたみたいで、うとうととまどろんでいた。紙の饅えたような匂いが鼻についた。この部屋の主というふうに古びた重たそうな机と椅子に納まって読書をしていたら、眠気に負けてしまいそうだった。

思わず目を擦るとその拍子にページがめくれた。そこは、もう読んだ——読んだ、だって？何語だろうか。アルファベットのようだけれど、なにか違う。前のページを読み返しても、不思議な文字の羅列が連なっていた。話を思い出そうと記憶を探ってみたけれど、追った先から内容が零れ落ちていつて、もう、思い出せなかった。

夢を思い出せない感覚に似ていた。夢を見ていたのだろうか。だからこうして眠いのか。

寝息のような、穏やかな呼吸が聞こえた。ああ、自分のか。もういいだろうか。

寝てしまっていていいだろうか。

枷が外れて、あとはジェットコースターのように。目を閉じて、落ちる、落ちる、落ちる。

くらやみへ。目を閉じているのにくらやみが見える。しばらくして、最後に何も見えなくなった。

おやすみなさい。

地の果ての炎が空を焼いていた。

その鮮烈な熱を乗せた生暖かい風が、低く唸りながらじつとりと頬を嘗めて過ぎていく。その幽かな音が耳につくほど、ここは酷く静かだった。静かで、そして黒い。この街はもう炎に飲まれた後で、廃墟と化した家が点々と連なつて、家で無くなつた瓦礫や鉄鋼に地面が埋もれていた。熱を持つ灰が頼りなげに赤く光っている。どうしてか人の気配は無かつた。生き残つたものがいなかったのか、それとも火が襲つてくる前に逃げおおせたのか。ここには何も無かつた。炎は全てを、じつくりと鳥が肉を啄むように焼いて食らい尽くしてしまつていた。そうしてここでの食事に満足した炎の波は遠くに行つて、空まで赤黒く焦がして食んでいる。

そんな終端の世界にいた。ただの終端だった。ほかに俺は何も知らない。気がついたらここにいたから、この街の歴史や営み、どんな人間が住んでいたかなんて分からない。それなのに俺だけがこの世界の終わりを知っている。眩暈を足元がおぼつかなくなつて尻餅をついたとき、ぞつとした。残火に触れて手を火傷した、その刃物のような鋭い痛みに『夢』なんていう退路はばつさり切り捨てられてしまった。

誰もいない。燦然とした思考の中で生まれたのは、逃避にも似た陶醉だった。それはこの世界の王にでもなつたような、逆に虫けらにでもなつたような、よくないものだった。頭を振り、その熱っぽい感覚を払いのけようとする。現状を理解できていない証拠だとい聞かす。

「レアル」

俺は名前を呟いてみた。誰でもない、自身の名前だ。思わず、そうしないと、酔いが回って自我を失ってしまいそうだった。

俺はレアルだと。

「そう、君はレアルだ。」

…視界が反転した。ちょうど写真がネガティブになったみたいだ。脳が奥から灼熱に当てられて、熔けたと思った。頭の中になにかがいる。小賢しい。痛みよりも激しく揺さぶられるように強い衝撃が頭の内側から断続的に生まれている。反転していた世界が、視界の端が、黒く染まっていた。蝕まれていく。

ようやく恐怖が追いついた。

誰か助けて、そう唇に乗せた声は、言葉にならず、絶叫となり、喉を枯す。

ざあああつと風が激しく強く乱れて、灰が、灰神楽の煙と共に舞い上がった。

激しく鮮やかな恐怖に心を支配されながら、最後に見たのは楽しげな唇。

「王の理想郷だ」

なにが途切れる音がした。

夢（後書き）

雰囲気小説で申し訳ないです。読みづらいと思いますが、どうぞよろしく願います。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6961o/>

joker

2010年11月8日19時32分発行